

ORACLE

Oracle Fusion Applicationsにおける AIエージェントとAIによる自動化

—
Oracle AI Agent Studioの実践ガイド：
チームのように機能する組み込みのインテリジェンス





目次

概要	3
役割の理解：AIエージェントとワークフローの使い分け	4
業務領域に応じたエージェントの提供	5
エージェント・チーム：連携したインテリジェントな実行力	6
ワークフローを使用したAIによる自動化の導入	7
すべての動力源：ワークフロー・ノード・フレームワーク	10
エージェントとワークフロー：相乗効果	11
オラクルが支援できること	12

概要

Oracle AI Agent Studio for Fusion Applicationsでは、エンタープライズ・インテリジェンスの基盤となる2つのアプローチ（AIエージェントとAIによる自動化ワークフロー）を導入しています。どちらも生産性の向上を支援するためにAIを使用しますが、解決する問題は大きく異なり、それぞれを使用するタイミングを理解することが重要です。ひとつは動的で高い自律性と適応性があります。もう1つは、構造化されており、反復可能で、ロジック主導です。Oracle Fusion Cloud Applicationsでは、この2つを後から追加するのではなく、組み込みで提供します。



役割の理解： AIエージェントとワークフローの使い分け

	AIエージェント	AIによる自動化(ワークフロー)
設計アプローチ	成果重視	フロー重視
次のステップの決定者	エージェント (推論およびツール・アクセスを使用)	お客様（ワークフローの各ステップを定義することにより）
ツールの使用方法	動的なエージェントが目標達成に必要なツール、サブエージェント、データを選択	静的なワークフローでツールの使用方法を事前に定義
ユースケースの複雑さ	曖昧さやパーソナライズのあるタスクに最適	明確なルールのある繰り返し可能なタスクに最適
企業における例	ユーザに合わせてパーソナライズされた休暇ポリシーをエージェントが説明	ワークフローが見積もりからデータを抽出し、購買依頼を作成
最適な領域	自律性、適応性、パーソナライズ	自動化、スピード、一貫性

AIエージェントは、デジタル従業員のよう動作します。目標を設定し、ツールへのアクセスを提供すると、その達成方法を導き出します。推論し、計画を立て、決定するのです。

AIによる自動化では、ワークフロー（それぞれのステップが事前に定義された、モジュール式でルールベースの繰り返し可能なプロセス）が使用されます。これらワークフローでも、抽出、分類、要約、または意思決定のサポートにAIを使用する場合がありますが、順序は固定されています。必要に応じて、ワークフローにエージェントを組み込むこともできます。Oracle AI Agent Studioでは、どちらのAIテクノロジーも利用可能です。タスクに基づいて適切なものを選択します。

業務領域に応じたエージェントの提供

オラクルは、Fusion Cloud ERP、HCM、CX、およびSCMにいたるまで数十種類のAIエージェントを提供しており、そのすべてがエンタープライズ・データ、ポリシー、およびワークフローを理解するように事前に設定されています。それらエージェントは次のとおりです。

- Fusion Applicationの上にレイヤーとして配置されるのではなく、中に組み込まれている
- Oracle AI Agent Studioを通してすぐに使用または適応可能
- ビジネス・オブジェクト、ロール、ドキュメント・モデルに基づいている

現在実行されている例をいくつか紹介します。

エージェント	ドメイン	内容/説明
支払最適化アシスタント	ERP - 財務	支払条件や割引の機会を評価することで、アナリストが運転資本を最適化できるよう支援します。
保守修理評価者	SCM- 保全	資産ログ、マニュアル、過去の作業指示書を分析し、修理の評価を支援します。
営業見積生成アドバイザー	CX - 営業	顧客履歴、価格設定モデル、承認ルールに基づき、複数の見積もりオプションを推奨します。
人材データの収集	HCM - 人材	タレント・レビューで担当者が活用できるように、パフォーマンス、学習、目標のデータを取りまとめ、要約します。
提案管理アドバイザー	部門横断型	人材、報酬、ポリシーからのインサイトを使用して、マネージャーによる従業員の評価、育成、報酬の支払いを支援します。

いずれも、Oracle AI Agent Studioを使用してクローニング、拡張、パーソナライズでき、コーディングの必要はありません。

エージェント・チーム：連携したインテリジェントな実行力

Oracle AI Agent Studioのエージェント・チームにより、複数のエージェントが連携して共通の目標を達成できます。リード・エージェントは、プロセスを指揮し、シナリオ、ユーザー入力、または利用可能な状況に基づいて、タスクを他のエージェントに依頼します。

たとえば、**営業見積り生成アドバイザー**・チームは次の要素で構成されます。

- **リード・エージェント**：見積り作成プロセスを調整
- **データ収集エージェント**：製品、顧客、価格設定の背景を収集
- **オプション・エージェント**：複数のカスタマイズされた見積り構成を構築
- **価格設定エージェント**：価格設定ガイダンスと割引のしきい値を取得
- **プレゼンター・エージェント**：送信できるように見積りのフォーマットとパッケージを作成

各エージェントは独自のツールとシステム上の責任を有しています。リード・エージェントは、人間のチーム・リーダーのように、必要な作業と担当者を決定します。

これは固定されたスクリプトではなく、顧客、データ、タスクに合わせてリアルタイムに調整するコラボレーション・インテリジェンスです。



ワークフローを用いたAIによる自動化の導入

エージェントは推論が必要な動的なタスクに最適ですが、ワークフローは構造化された繰り返し可能な業務プロセスに最適です。

AI Agent Studioのワークフローは、再利用可能なノードから構築された視覚的なモジュール式のフローです。AIとロジックを組み合わせたワークフローは、次のことを目的として設計されています。

- 大量のドキュメントベースのタスク
- 検証または承認を必要とする業務プロセス
- データの抽出、変換およびトランザクションの作成

ワークフローには次の機能があります。

- メール受信、ユーザーによるアクション、エージェント・コール、スケジュールされたトリガーなどのイベントからの開始
- ドキュメント・プロセッサと大規模言語モデル（LLM）を使用したデータの解析と抽出
- 条件付きロジックを使用した意思決定
- Fusion APIコールまたはビジネス・オブジェクト機能の呼び出し
- 人間による入力や検証のための一時停止
- 関係者への通知と業務システムへの結果の反映



調達効率化： 見積もりから購入までの購買依頼アシスタント



問題：

サプライヤーの見積もりは、PDFやスキャンしたドキュメント、スプレッドシートなど、一貫性のない形式で届くことがよくあります。依頼者は情報を購入依頼書に手作業で再入力するため、遅延やエラーを引き起こすことがよくあります。



ソリューション：

ワークフロー・エージェントは自動的に見積もりを解析し、構造化されたデータを抽出し、請求書のドラフトを作成します。

ハイライト：

- **トリガー**：ユーザーによる見積もりのアップロードまたはメール送信
- **変数の設定**：依頼者とコンテキストの把握
- **ビジネス・オブジェクト機能**：ユーザーと配送先に関するデフォルト値の取得
- **条件分岐**：依頼者が要件を満たしているかの確認
- **ドキュメント・プロセッサ**：アップロードされた見積もりの解析
- **LLMノード**：サプライヤー名、明細項目、単位(UOM)、および価格の抽出
- **ビジネス・オブジェクト機能**：要求事項案の作成
- **メール通知**：レビューして提出できるよう依頼主へのディープリンクの送信

このインテリジェント・フローは、AIを使用してさまざまなフォーマットに対応すると同時に、ビジネス・ロジックを適用して正確性とポリシー準拠を維持します。

配送の迅速化： 受注インポート・アシスタント



問題：

顧客は、メールやポータルを通じて、さまざまな形式の発注書を送信します。セールス・チームがそれらを手動で注文書として再入力しているため、非効率とミスを招いています。



ソリューション：

ワークフローは、ドキュメントの取り込みから注文書の作成までの全プロセスを自動化します。

ハイライト：

- **ドキュメント・プロセッサ**：受信した発注書のフォーマットの解析
- **LLMノード**：ファジーマッチングを使用した、ヘッダーと行レベルのデータの連携
- **ベクトル・データベース・ライター**：今後の再利用のために修正されたフィールド・マッピングの保存
- **ビジネス・オブジェクト機能**：Oracle Fusionにおける注文書の作成
- **条件分岐**：欠損または競合するデータポイントの処理

これは、新しいドキュメントを処理するたびにパターンを学習し、精度を向上させながら、時間とともに改善していく自動化です。

すべての動力源：ワークフロー・ノード・フレームワーク

Oracle AI Agent Studioのワークフローは、柔軟な一連のノードを使用して構築されます。

実行ノード

- **LLM**：非構造化データの抽出と解釈
- **ドキュメント・プロセッサ**：PDF、Excel、またはメール・コンテンツの解析
- **ビジネス・オブジェクト機能**：Fusionトランザクションとのやりとり
- **ノードとしての外部REST/ツール**：外部システムやエージェントへのコール

論理ノードと制御ノード

- **開始ノード**：ワークフローの開始
- **変数の設定**：データの格納と受け渡し
- **条件分岐/スイッチ**：ビジネス・ロジックの適用
- **ループ/並列実行の場合**：リストまたは並列実行の処理
- **人間による判断**：承認のための一時停止
- **コード・ノード**：インライン変換ロジックの追加
- **メール送信**：通知やエスカレーションの送信

学習ノードとメモリ・ノード

- **ベクトル・データベース・リーダー/ライター**：パターンの再利用とファジーマッチングのサポート

これらの構成要素により、ワークフローは効率的なだけでなく、インテリジェントで状況に応じた自動化を実現します。

エージェントとワークフロー：相乗効果

AIエージェントとAIによる自動化ワークフローは競合ではなく、相互に補完し合うモデルです。



その結果、意思決定、パーソナライズ、実行を統合されたエンタープライズクラスのエクスペリエンスに統合した**ハイブリッド・インテリジェンス**が実現します。

これが、エージェント型システムの構築目的である、単なる自動化ではない、大規模なオーケストレーションです。

エンタープライズ・インテリジェンスの未来は、すでにここに

Oracle AI Agent Studioは、新世代のエンタープライズ機能を実現します。

- **AIエージェント**による自律性、コンテキストに基づく意思決定、パーソナライズ
- **ワークフロー**による構造化および自動化された効率的なプロセス
- **エージェント・チーム**によるドメイン間の連携した実行力
- **Fusionネイティブな統合**によるFusionセキュリティ・フレームワークの継続とアクセス制御

これはAIを上レイヤーとして重ねて配置したものではありません。設計段階からインテリジェントで協働的、適応性を備えた、エンタープライズ業務の新しいモデルです。後付けではなく、最初から組み込まれています。

オラクルが支援できること

AIエージェントはビジネスの進め方を根本から変えつつあります。オラクルは、組み込みのAIとネイティブなAIエージェントによって、生産性とビジネスプロセスの自動化を新たなレベルへと引き上げ、こうした変革をリードしています。Oracle AI Agent Studio for Fusion Applicationsを使用すれば、Fusion Applicationsに組み込まれた事前構築済みのAIエージェントをカスタマイズしたり、新しいエージェントを迅速に作成したりして、日々の業務の中でAIのアイデアを実現できます。オラクルのAIがもたらすメリットをご確認ください。

詳細情報

デモのリクエスト

オラクルの情報を発信しています

+050-3615-0035にお電話いただくか、oracle.com/jpにアクセスしてください

国外の地域については、oracle.com/jp/contactで最寄りのオフィスをお探しください。

Copyright © 2025, Oracle and/or its affiliates.このドキュメントは情報提供のみを目的としており、記載内容は予告なしに変更される場合があります。このドキュメントは、誤りがないことを保証するものではなく、口頭または法律で明示されているかどうかにかかわらず、商品性または特定の目的への適合性の黙示の保証および条件を含む、その他の保証または条件の対象ではありません。オラクルは、このドキュメントに関連するいかなる責任も明確に否認します。また、このドキュメントによって直接的、間接的にかかわらず契約上の義務が生じることは一切ありません。このドキュメントは、オラクルによる事前の書面による承諾を得ることなく、目的の如何を問わず、電子的手段または印刷によるものも含めていかなる形式や手段によっても複製または送信することが禁じられています。Oracle、JavaおよびMySQLはオラクルおよびその関連会社の登録商標です。その他の社名、商品名等は各社の商標または登録商標である場合があります。

